学校番号	306

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	古典探究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　古典探究（数研出版）						
副教材等	読解をたいせつにする 体系古典文法 九訂版（数研出版） 三訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法学習ノート（数研出版） わかる・読める・書ける Key & Point 古文単語 330 四訂版（いいずな書店） 必携 新明説漢文（尚文出版） 必携 新明説漢文ノート（尚文出版） 新訂国語図説 六訂版（啓隆社） 四訂版 プログレス古典総演習 発展編（いいずな書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・三年生の古文では、一、二年生で身につけた語彙力や文法の知識を確実に自分のものとし、的確に用いて古典の世界を読み取れるようにしましょう。
・より多くの古文や漢文といった古典作品に親しみ、古人の思いや考え、文化を味わってください。
・物語を読む際には主語を意識し、登場人物の心理を理解できるようにしてください。
・予習として本文をノートに書写し、本文中の文法について予測を立てておいてください。また、わからない語句は辞書で調べて授業に臨んでください。
・授業内容はその日のうちに復習してください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
一、二年生で学習した語句の意味、用法及び文の構造について理解を深める。
【思考力、表現力、判断力等】
与えられた情報をもとに作品の内容を論理的に整理することができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
古人の考え方や文化に触れることによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	作者が中宮定子をどのような人物だと感じたか、また周囲の女房たちがこの頃の作者をどのように見ていたかを読み取る。 ［教材］ 枕草子　宮に初めて参りたるころ	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 c：周囲の女房たちの心情について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、整理する。 ・「嘆きつつ…」の歌にこめられた作者の気持ちを理解する。 ［教材］ 蜻蛉日記　うつろひたる菊	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 c：積極的に作者の心情をとらえ、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。 ［教材］ 後漢書　梁上君子	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 b：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたかについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	「土御門殿のありさま」のどのようなところが「いはむかたなくをかし」なのか、整理する。文中の二首の歌がそれぞれどのようなことを伝えようとしているのか、考える。 ［教材］ 紫式部日記　土御門邸の秋	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：作者の心情について本文をもとにおおむね正しくとらえ、贈答歌から道長と作者のやりとりの内容を理解できている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	作者と帥宮の贈答歌について、それぞれの歌に込められた気持ちを理解する。 ［教材］ 和泉式部日記　薫る香に	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：作者の心情について本文をもとにおおむね正しくとらえ、贈答歌から作者と帥宮のやりとりの内容を理解できている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	陸雲は周処にどのような助言をしたのかまとめ、周処がなぜ心を入れ替えようとしたのか考える。	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 b：「読むこと」において、文章の種類を踏ま	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート

	［教材］ 世説新語　三横	えて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：周処が心を入れ替えようとした理由について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。			
2学期	光源氏に対する六条御息所の思いが読み取れる箇所をあげて、その心情を理解する。引き歌表現について理解する。 ［教材］ 源氏物語 車争ひ 明石の姫君入内	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 c：引き歌表現を丁寧に考察することにより、『源氏物語』の解釈を十分に深めることができている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	姫君の入内に関し、継母はどのように、なぜ考えているのかを読み取る。また、継母が継子をいじめる話にはどのような作品があるか、関心を広げる。 ［教材］ 住吉物語　継母の策謀	a：古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：継子いじめの物語について積極的に調べ、学習課題に沿ってまとめようとしている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	荊軻の出発までの経緯や・易水での歌にこめられた荊軻の気持ちについて理解する。また秦王と対峙した状況を本文に沿って理解する。 ［教材］ 史記　荊軻	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：秦王が荊軻の最初の一撃を免れた後、依然として危険な状態におかれた理由について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
	本文中の和歌と漢詩に込められた道真の心情を整理する。語り手は、時平と道真に対してどのような思いを持ちながら語っているのか話し合う。 ［教材］ 大鏡　道真と時平	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c：本文の展開をおおむね整理し、時平と道真に対する語り手の思いについて考察できている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート
3学期	筆者が清少納言と紫式部をそれぞれどのような人物と捉えているか理解する。 ［教材］ 無名草子　清少納言と紫式部	a：古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 c：清少納言と紫式部を対比的に取り上げて、紫式部の方を高く評価していることを、それぞれの冒頭部などから読み取り、理解できている。	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト ノート

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　５　）時間

・書くこと　…　（　５　）時間

・読むこと　…　（　６０　）時間